

ジャックの樹新聞 蛇淵キャンプ場1泊2日の旅♪ H25 8月21日～8月22日

今年のジャックの樹のキャンプも4班目に♪それぞれ班にそれぞれの色があり、まったく違うキャンプになるので出発前から、今回のキャンプではどんな体験が出来るか私たちもワクワクしながらパピヨンプラザに集合しました。今回は、高校生1名 中学生3名 小学生1名の5名の青年達で自然豊かな森林の中にある蛇淵キャンプ場を目指します。



千代町のパピヨンプラザに集合後、1台の車に乗り込み、それぞれキャンプに期待を込め、ドキドキワクワクした表情で出発した青年達も、しばし車を走らせると移り変わる外の風景に眺めたり、会話を弾ませたりとさっそくリラックスモードに(笑)

そしてキャンプ場に着く前にまずはみんなで買い出しへ♪

今日の夕食何にしようなどと考えながら何気なく「買い物」を普段行っています。キャンプでの買い物は目的を持って、皆で行う事が大切です。一人だけで買いたい物を進めても駄目だし、欲しい品物の誘惑に負けて脱線しても前には進めません。皆で足並みを揃えて成し遂げる事が大切なのです。なかなか食材が見つからない際は仲間同士で一緒に探し、そしてスタッフよりも先に食材を見つけて買い物かごへ(笑)なかなかのチームワークを発揮してくれていましたよ♪買い物一つをとっても、場を和ませながら買

物を進める青年の姿や頼んだものを即座に探し出す青年の姿、新しい場所でのドキドキするけど歩調を合わせながらしっかりと頑張る青年の姿と様々な気持ちや個性が見られました。それぞれの個性・気持ちを持ちながら、『仲間と一緒にやり遂げる』ってとっても大切な事ですよ。個々の個性を持ちながらも、周囲の事を考え、周りの人と一緒に行えた経験

が、スーパーマーケット等の地域の資源を使う際や仲間と過ごす時に生きるんだと思います。初めての1歩は誰もがドキドキするけど、今回のメンバーはキャンプ経験者。皆と一緒に歩調を合わせて、協力しながらのやり取りが上手になっていましたよ♪



買い物後は自分で選んだ飲み物を車の中で飲みながら、しばしドライブを♪田川に入ると田園地帯が広がっていき、窓を開けると都会とは違って気持ちいい風が吹きます。そんな心地よさを味わいながらキャンプ地の蛇淵キャンプ場へ到着です。管理棟の方へ皆で挨拶を済ませ、歩いてコテージへ。キャンプ場は標高が高い事もあり、暑さも和らいでいて、テクテクと歩くのにはちょうど

よい気候でした♪コテージまで少し散歩するとちょっとした森林浴もでき、心も体もリフレッシュでした。



コテージにつき、荷物を皆で運び入れ一息入れた後は、ジャックの樹恒例のアートタイムです♪今回は木材でできたティッシュペーパーケースにアクリル絵の具を使っての絵付け♪皆、竹若下からの説明を熱心に聴いて、創作活動への意欲が燃えている様子(笑)色付けの際も木材に絵を描いてみたり、かわいらしく模様のように色を乗せたりと私自身こんな塗り方があるのかと感心するような方法を編み出しながら色付けを行っていました。それぞれの個性が十分に発揮されていて、初めはシンプルだった木材のペーパーケースもののびのびとした作品に大変身でした♪

(記・鈴木 和加菜)



さ、次はいよいよ夕食作りですね。キャンプの醍醐味と言えるでしょう。

アートは個別のものを仕上げる活動ですが、料理はみんなので一つのものを仕上げるというものになります。出来る上がるものを伝え、「じゃあ、あなたはこの部分をやって」「君はこれをお願いね」という具合に、分担して作業自体は各々やる訳ですが、これがなかなか大変なのですよね。日頃、親御さんたちが毎日して下さっている大変さを感じながら、食材や調理器具などと格闘です(笑)さらにバーベキューサイトを利用しての料理なので火起こしまでしなくてはなりません。

玉ねぎに、炭から上がる煙に、涙目になりながら頑張りました。

ところで何を作ったの？とお

思いでしよう。実は今回、バーベキューサイトを使って、お好み焼き作りにチャレンジしてみましたのです。野菜を刻んでミックスと混ぜ鉄板の上で焼けるのを待つ：家でホットプレートなんかを使ってしていると実に簡単な料理ですが、バーベキューサイトで火を起こし、鉄板が熱されるのを待ち、生地が焼けるのを待つ：なんて忍耐の必要なメニューであったことでしょうか。これもまた勉強ですね。食卓に出来上がった料理が運ばれるのを待つことについて慣れてしまいがちですが、こういう場もたまには大切だと思います。日常に感謝をしながら：いただきますー！

実にポリリューミーで美味しいお好み焼きが出来ました。他にスープと焼きソバを用意して、お腹いっぱい頂きました。自分で作った上に、もの凄い忍耐を持って待った食事の時間。美味しさが何倍にも引き立ちます。実に楽しい食卓となりました。おかげで当初予定していた量では足りず、作り足したほどです。みんなとっても素

敵な表情で食事をしていました。



さ、美味しくいただいて片づけ

です。実はこの料理から食事の間、キャンプ場は雨と雷に見舞われていました。屋根に守られているので食事等に影響はありませんが、片づけが心配されていました。でも片づけを始めた頃に雷雨が止み、心配も乗り越えし苦労となりました。日頃の行いのたまものと言ったところでしょうか。

コテージに戻り、順に入浴をして一日の汗と煙の臭いを綺麗に落とします。風呂上がりの一人一人の表情はとっても爽やかでした。すっきりとした心地よさ

一日をやり切った充実感でいっぱい表情で、寝床へ：おやすみなさい。

翌朝、六時に起床。スタッフに起こされ、目覚めの良い寝覚めの人、目覚めの悪い人(笑)それぞれに身支度を整え、周辺散策へ向かいます。

コテージから出て、清々しく晴れた空の下を散策開始です。コテージの外には街中とは違う、山間独特の空気があります。野鳥の声もどこからか聞こえてきます。木々、草花、土の香りもあります。そんな中を歩き「蛇淵の滝」という滝が見える場まで歩いて行き、そこでみんなで記念撮影をしました。ききました。他のキャンプ客はまだ寝ていると思われ、外を歩いているのは私たちのグループのみ。ちょっと特別な時間と気分を味わいました。



散策を終えて、朝食にご飯とみそ汁、オムレツを食べました。昨日からのキャンプを振り返ったお喋りをしたり、まだまだエネルギーに黙々と黙々と食事を口に運ぶ人がいたり、昨夜の夕食とはガラリと雰囲気の違いが食卓となりました。やはり大勢で囲む食卓は楽しく良いものです。



さ、これでキャンプの全行程終了です。「来た時よりも美しく」の精神で片づけをして、キャンプ場を後にしました。帰りはお喋りと、ウトウトを繰り返しながら家族の待つパピヨンプラザまでのドライブとなりました。

キャンプを通して、家族をはじめとする日常の大切さを感じたり、非日常で気持ちをリフレッシュさせたりのことは、日常をより良いものにする為に大切なこ

とです。また普段顔を合わせることはなくとも、「プールを頑張っている」という共通項で繋がっている仲間と年に一度でも共に何かに取り組むということは生徒たちにとって何かしら意味があるものになるのではないかと思います。それは私たちスタッフにとっても同様で、プール外での付き合いで得る物があったと思っています。このキャンプが今後お互いの生活に良い影響をもたらすことを願いながらも、日常に戻っていききたいと思えます。みんな本当にありがとう。お疲れ様でした。

（記：永田 淳哉）



保護者の方からの声

ジャックの樹のキャンプに参加するのも今年で4回目になります。駿介は毎年夏休みになると毎日のように「明日キャンプ？」と言ってキャンプに参加することをとて楽しんでしています。

ことを願います。今年は大変な猛暑の中、子供達のために本当にありがとうございました。

宗和 駿介 母

ジャックの樹のスタッフから

今回キャンプに参加させていただき、社会に巣立つ為、「自分らしく」課題を一つずつ積み重ねながら成長していく子供達の様子を少し垣間見ることができ、良い経験となりました。色々な活動を通じて自分自身に対しての自信や、お互いに励ましあった友達の優しさ等がかげがえのない思い出となった事と感じております。キャンプの帰路「自分らしく」やり遂げたという充実感溢れる表情は今もとても印象に残っております。今後のプール指導においても自分自身の課題に挑戦しながら、誇り高く成長していかうとする生徒たちを応援していきたいと考えております。

キャンプへのご参加ありがとうございました。

ジャックの樹 竹若 勇一

「父の背を追って」

毎年 お盆に近づくと 現在
この仕事についた時の事を思い
出します。

小学生5、6年の頃から教会の
ボランティア活動に誘われて
病院や老人施設や障がい児・者の
施設へ訪問して 食事の介助や
散歩を楽しんだりして何らかの
お手伝いをしながらひとりひと
りの方と交流を深めていました。
もちろん はじめはあまりにも
違う生活の流れに戸惑い たど
たどしく話す口調にもビックリ
して 1週間 食事を取る事が
出来ませんでした。

それからなぜか「もっと知りたい
もっと仲良くなりたい」と思い
何回も何回も各施設に足を運び
ようになりました。

入所している方々とも少しずつ
笑顔で話せるようになったり
肩を並べて歌を歌えるようにな
ったり・・・私は「何か こんな
僕でも役に立つ事は出来ないの
か」と考えるようになりました。

そんな想いが募り、私は父に将来
福祉の職に就きたいということ

を伝えました。

父は「男がオムツを替えたり 食
事の介助をしたり ベッドにシ
ーツをひいたりするのは

男の仕事ではない！」とすごい剣
幕で怒りました。しかし 私は
負けずに説得し続けました。する
と父は「そんなに その道に行き
たいのなら 親が死んでも帰っ
てこないくらいの覚悟で行くな
ら行っていい。それくらいの決意
がないならいなら人の世話はで
きん。いいか」と言って送り出
してくれました。

その後 私は長崎の施設に勤め
るようになり 5年が経過、通信
制の大学にも通うようにもなり、
資格も取得する事が出来ていま
した。そんな矢先に・・・

父親は 以前から肺がんの手術
をし、入退院を繰り返していま
した。実家とも連絡を取りながら心
配していたのですが、「親が死ん
でも帰ってこないくらいの覚悟
がないと その仕事は出来ない」
その言葉が頭から離れませんで
した。なぜならその言葉が 私の
「支え」にもなっていたからです。

毎日 毎日 祈る思いでした。

それから父が危篤状態になった
と連絡がありました。

私は「・・・どうすべきか」と不
安でたまらない気持ち 父の言
葉を思いだしながら仕事に打ち
込んでいたのです。

ちょうどその頃 施設では秋の
運動会が行われました。行進の練
習や楽器の練習等、楽しい思い出
の残る運動会にしようと 施設
一丸となって準備していました。
そして 運動会当日 パレード
の行進が出発すると同時に「渡辺
さん お父さんが・・・」と父の
訃報を聞かされたのです。

しかし 私は帰りませんでした。
父を想うならなおさら帰れませ
んでした。

そして、運動会が終了してから父
の元へ。

父の顔をじっと見ながら私は「こ
の仕事 続けるから・・・。」と約
束して 父に別れを告げました。
それから十数年、今でもその
言葉を胸に 何かある度に 思
い浮かべます。

父の言葉があったからこそ 今
の私があるのだと、こうして現場
に立てるのだと思います。

現在 私は色々な方々から支え
られ 沢山の学ばせてもらって
います。

これからも この言葉を胸に抱
きながら歩んでいきたいです。

私の原動力・・・それは「人との
出会い」そして「感謝の気持ち」
そして、父の言葉・・・
それなのだと思えます。

そう！現在 関わっている子供
たち、青年たち そしてこれか
ら出会う仲間とも真剣に ひと
りひとりの成長にあったステッ
プを 一緒に歩いてゆきたいと
思います。

ジャックの樹 主宰 渡辺千秋

「ジャックの樹」ってどんなところ？

障がいがあっても地域の中で自分ら
しく生きていきたい。そんな普通の
願いを叶えるためには、小さい頃か
ら自立するための技術や精神、体力
を身に付けることが必要です。
その療育活動をサポートしていく
のが、地域密着型余暇支援活動組織
「ジャックの樹」です。

<http://jacknoki.com/>